



令和8年4月8日

学生が自ら組み立てる“ゼロ・ウェイスト家具”
～建築プログラムが実施する「ワゴン組み立て演習」を公開します～

情報提供

広島大学工学部建築プログラムでは、学生が実際に使用する家具を自ら組み立てる「ワゴン組み立て演習」を下記のとおり公開いたします。

本演習は、2025年度より進めてきたデジタル建築教育環境の整備の一環として実施するものです。新たに導入した製図室用家具のうち、学生が日常的に使用するワゴンを対象に、設計・加工・組み立てのプロセスを体験的に学ぶことを目的としています。

演習では、学部3年生約50人が、1枚のラワン合板から端材を出さないよう設計された「ゼロ・ウェイスト」思想に基づく特注キットを使用し、家具職人の指導のもとで組み立てを行います。あらかじめ機械加工された部材を用い、切り出しや研磨などの作業を通じて、木材加工の基礎や設計上の工夫を実践的に学びます。

また、本取り組みでは、広島県産材の活用を通じて、木材の流通（森林）から製品利用に至るまでの一連の流れを理解することも狙いとしています。建築分野において国産材の活用が求められる中、本演習は「川上から川下まで」を体験的に学ぶ教育プログラムとして位置づけられます。

演習に先立ち、家具製作および林業の第一線で活躍する実務者による講演も実施し、木材を取り巻く産業の現状や可能性について理解を深めます。

是非とも取材いただきますようご案内いたします。

記

日時：令和8年4月10日（金）13：00～16：00

会場：フェニックス工房2階 3年生製図室（工学部付近。添付地図参照。）

プログラム：

13：00～13：10 製図室環境整備の概要説明

13：10～13：50 講演

「木のものづくり — 家具から建築まで —」

株式会社サクラサク 代表 植原健司 氏

「自伐型林業の取り組みと林業6次化」

株式会社 FOREST WORKER 代表 田村栄太 氏

13：50～ ワゴン組み立て演習

取材について：取材をご希望の際は、末尾のお問い合わせ先までご連絡をお願いいたします。

演習の特徴

本演習では、学部3年生約50人が、今後1年間使用するワゴンを自ら組み立てます。使用する家具キットは、1枚のラワン合板から端材を出さないよう設計された「ゼロ・ウェイスト」思想に基づく特注品です。あらかじめ機械加工が施されており、簡単な切り出しと研磨のみで組み立てが可能となっています。

学生は家具職人の指導を受けながら作業を行い、木材加工や設計の工夫を体験的に学びます。

講演・連携企業の概要

株式会社サクラサク（所在地：広島県三原市、代表取締役：植原健司氏）は、手加工にこだわり、家具・空間づくりを行うメーカーですが、近年は木材流通の川上から川下までの繋がりを構築する取り組みが注目され、ひろしまグッドデザイン賞（広島市から委託を受けた公益財団法人広島市産業振興センターが実施）も受賞しています。今回、製図書へ家具（机、ワゴン）を導入するプロジェクトでは、これまで使われにくかった県産材ストック等を活用した製品をデザイン・製作する役割を担われました。

株式会社 FOREST WORKER（所在地：広島県庄原市、代表取締役：田村栄太氏）は、自伐型林業および林業6次化の取り組み等で注目されており、森の未来を守り育て循環させるプロジェクトで2024年にウッドデザイン賞（一般社団法人日本ウッドデザイン協会が実施）を受賞しています。今回、製図書へ家具（机、ワゴン）を導入するプロジェクトでは、一部の家具にトレーサビリティ可能な県産材の提供を担われました。

<会場案内図>



(お問い合わせ先)

広島大学大学院先進理工系科学研究科 建築学プログラム
助教 石垣
TEL/FAX : 082-424-7842
E-mail : isgkay@hiroshima-u.ac.jp

発信枚数 : A 4版 3枚